



水野博「友禅訪問着 創生」
—友禅の名匠 水野博—



山田敬中「春秋山水図」
—日本画構図大研究—



- 西洋へのあこがれ —16代前田利為侯のコレクションから—
- 古九谷の誕生と展開
- 友禅の名匠 水野博
- 日本画構図大研究
- 近代版画・石川の近代彫刻家たち

- 2月前半の展覧会
- 2月の企画展示室
- 友の会会員募集
- 2月の行事予定
- 所蔵品紹介

第2展示室

古九谷の誕生と展開

2月11日(水・祝)～3月22日(日) 会期中無休

哲学者で、柳宗悦の民藝運動を支えるなど、美術工芸に造詣が深かった谷川徹三氏(一八九五～一九八九)は、古九谷について、次のように述べています。「古九谷の美は、一見わかりやすそうであり、必ずしもそうではないのだ。柿右衛門には甘美な情調とともに、その色にも線にも眼に直ぐ受入れられる感覚的秩序がある。古九谷にはそういう甘美な情調も感覚的秩序もないばかりか、自由な意匠と奔放な色の配置にはどこかに硬質なものが感ぜられ、それが最初は抵抗を呼ぶのだ。やがてその美の世界に入り込むと、それは汲めども尽きぬ豊かさ、いつまでも手応えのある強さとして、われわれの心を捉えて放さぬものとなるのだが。それを私は美の高さと呼ぼう。美の高さには鑑賞者も一挙

同妃の行啓の光栄に与りました。さらに、大正十二年(一九二二)の関東大震災の後、東京帝国大学の拡張計画に伴う同大学の駒場所有地との等価交換で、昭和五年(一九三〇)に駒場邸を新築しました。陸軍士官学校を卒業ののち軍人の道を歩み、大正二年(一九一三)のドイツ留学に始まり、数々の国際会議に日本代表として出席、また昭和二年(一九二七)には駐英大使館附武官として渡欧するなど、欧州各地をたびたび視察しましたが、そうした機会に収集されたものが、今回の展示の中心です。作曲家の自筆楽譜や著名人の書簡など貴重な作品が含まれており、五代藩主綱紀の事績に深く関心を寄せた利為侯の幅広い人物像を感じていただければ幸いです。

には至り得ないのだ。古九谷はその美の高さをもっているのである。」谷川徹三「古九谷の美」(集英社「古九谷」昭和四十六年所収)より原文のまま引用。

いかにも哲学者ならではの深い洞察をもって、古九谷の本質を見事に捉えていると思います。そして、谷川氏の言う「美の高さ」こそが、色絵磁器という日本の新たな美術ジャンルに挑んだ加賀藩三代藩主前田利常が目指したところだったのではないのでしょうか。

このように、古九谷は加賀藩の文化政策、特に文化によって天下を一を目指した利常の気概なしには誕生し得なかったものであり、この精神が再興九谷以後今日まで、作家たちを鼓舞し続けています。今回の特集では再興九谷諸窯の代表作とともに、その展開の軌跡をたどります。



県文 古九谷 色絵鶉草花図平鉢

前田育徳会尊經閣文庫分館

西洋へのあこがれ

—16代利為侯のコレクションから—
2月11日(水・祝)～3月22日(日) 会期中無休

いよいよ北陸新幹線が開業します。当館では、四月から六月にかけて、(公財)前田育徳会の特別にご協力をいただき「加賀百万石の名宝」展を予定しており、準備を進めております。その展覧会に先立ち、前田育徳会を設立された十六代前田利為侯のコレクションの中から、西洋のコレクションを紹介いたします。

利為侯は、明治十八年(一八八五)、旧七日市藩前田家十二代子爵利昭の五男として生まれ、同三十三年(一九〇〇)に旧加賀藩前田家十五代侯爵利嗣と養子縁組を行い、同年利嗣侯逝去にともない家督を相続、利嗣侯の志を継いで本郷邸を新築し、同四十三年に明治天皇の行幸ならびに皇后、皇太子・

同妃の行啓の光栄に与りました。さらに、大正十二年(一九二二)の関東大震災の後、東京帝国大学の拡張計画に伴う同大学の駒場所有地との等価交換で、昭和五年(一九三〇)に駒場邸を新築しました。陸軍士官学校を卒業ののち軍人の道を歩み、大正二年(一九一三)のドイツ留学に始まり、数々の国際会議に日本代表として出席、また昭和二年(一九二七)には駐英大使館附武官として渡欧するなど、欧州各地をたびたび視察しましたが、そうした機会に収集されたものが、今回の展示の中心です。作曲家の自筆楽譜や著名人の書簡など貴重な作品が含まれており、五代藩主綱紀の事績に深く関心を寄せた利為侯の幅広い人物像を感じていただければ幸いです。

ラフマニノフ自筆楽譜(「5つの小品」より前奏曲)
※3月13日まで展示

第6展示室

日本画構図大研究

2月11日(水・祝)～3月22日(日)
会期中無休

近代以降、日本画は時間をかけて大きな変化をみせてきました。その変化とは、テーマはもちろん画材の扱いや構図に至るまでであり、近世以前と変っていないところを探すが難しいくらいです。今回の特集展示は、そのうち「構図の変化と工夫」に着目し、館蔵の日本画から紹介しようとする試みです。

明治までの数世紀、大きな変化を見せなかった日本画の構図は、近代以降の一五〇年で大きく変化しました。それは鎖国された近世までの時代と、西洋文明を積極的に取り入れ、変貌を遂げた近代以降の文明の違いに呼応しています。では構図がどのように何故変化したのか、いくつか例を挙げて考えてみます。

まず、大和絵などに多く見られた説明的な俯瞰(見

下ろした)構図は影を潜めました。これは、絵画の記録媒体として担っていた側面が薄れてきたことや、全体を把握する作画法から部分に焦点をあてる作画法にシフトしてきた事が考えられます。

そして従来の日本絵画に多用されてきた「空間」や「間」が消失しました。様々な理由が考えられますが、西洋画の移入により、見える物は全て描き入れるようになったこと、西洋画的な構図の取り方を教育されてきたことが挙げられます。さらに床の間のある家屋が減り、軸装画の需要が減少したことは、広大な空間を生みやすい縦長な構図の作品が描かれなくなった理由といえます。

本特集では、見過ごされがちな「構図」に着目し、楽しんでいただきたいと思います。



下村正一「黄樹のある風景」



上村松園
「女房観梅之図」

第5展示室

友禅の名匠 水野 博

2月11日(水・祝)～3月22日(日) 会期中無休

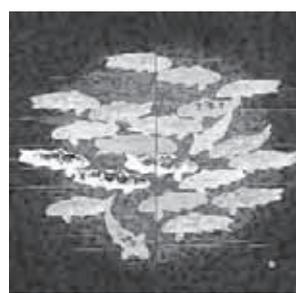
友禅作家としての将来を嘱望されていた水野博が、昭和五十四年に六十一歳の若さで亡くなってから三十五年が経ちました。遺された作品は今もなお、古びることなく私たちを魅了します。

水野は大正七年、現在の富山県砺波市で生まれ、家の事情により一家で金沢に移転しました。金沢市立森山町高等小学校卒業後の昭和八年、幼い頃から好きだった絵を生かせるということで、京都の土屋素秋の下で友禅の修業を始めました。同時に金沢出身の日本画家・池田瑞月に日本画を学んでいます。修業を終え約一年の兵役を経て金沢で独立、木村雨山の指導を受けて、日本伝統工芸展等で活躍しました。春夏の草花を主なモチーフとした、観る者の情感に訴える作品は高く評価されています。

表紙に使用した「友禅訪問着創生」は、晩年の水野

が最も好きな作品にあげたものです。昭和四十八年第二十回日本伝統工芸展に入選した、この作品の制作時水野は五十五歳。すでに病に冒され、自分の余命が長くないことを知っていたそうです。死を目前にして、新たな生命を讃える作品を作り、その後亡くなるまで精力的に制作し続けたことを思うと、改めてこの才能豊かな作家の早すぎた死が惜しまれます。

今回は所蔵品の十一点の内、二点を入れ替えしてすべて展示し、その魅力を充分に味わっていただきます。秋の企画展「工芸王国の実力」展に出品した、日本伝統工芸展初出品作にして、代表作でもある「友禅訪問着 蒼林の譜」は、作品保護のため会期後半、三月三日から展示します。この機会にぜひ名匠・水野の作品世界をご堪能ください。



水野博「彩」

1F企画展示室 没後400年記念 高山右近とその時代

歴史資料、茶道美術、南蛮美術などによって構成された本展ですが、実際に展示室を回ってみますと、それぞれの展示品が強烈に自己主張をしているような感じがします。こうした体験は、美術館で展覧会を鑑賞する醍醐味と言うことができます。そして、それぞれの展示品の語りかけから、「高山右近とその時代」の様相が伝わってきます。今回は展覧会に向けた調査・研究により、新たに得られた知見なども展示に反映させていきます。会期は終盤となっていますが、二月三日が四〇〇年の命日ということもあって世界的に高山右近への関心が高まっている今、是非本展をご鑑賞ください。



悲しみのマリア画像
南蛮文化館蔵

2月前半の展覧会 1月4日(日)~2月8日(日)

近年は、「歴女」という言葉が流行していますが、地元の方々も外部の皆様にも、「金沢」や「加賀百万石」について、より一層学んでいらっしゃる方が多いように感じられます。当館では「前田育徳会尊經閣文庫分館」をはじめとして、加賀藩前田家が培った豊かな文化を、より解りやすく、また多方面にわたる切り口から紹介していくことの重要性を再確認しております。前田家と高山右近の繋がりは、千利休の茶の湯と言っても過言ではありません。戦国の世における茶の湯の世界に心を寄せて、前田家の文化をお楽しみください。

春屋宗園墨跡

前田育徳会尊經閣文庫分館 新春を寿ぐ

第3展示室 近代版画

絵画芸術として高い水準に達した木版画である浮世絵は、明治に入り新しい印刷技術との競合で次第に衰退していきます。そうした中にも、小林清親等、浮世絵の伝統に新しい西洋の表現技法を取り入れ、絵画的にも優れた作品を残した絵師がいたことを忘れることはできません。また、大正期には美しい日本の木版画の衰退を憂い、伝統的版画の復活を目指して「新版画」と自画・自刻・自摺を基本とする「創作版画」が生まれ、近代版画の隆盛時代を作り上げました。今回の「近代版画」では明治に活躍した小林清親と、大正期「新版画」の創作に力を注いだ伊東深水、橋口五葉、川瀬巴水等の作品を中心にご覧頂きます。



川瀬巴水「厳島の雪」

2月11日(水・祝)~3月22日(日)会期中無休

新幹線開業を迎えるこの時期、石川県出身の作家を中心とした優品を展示し、本県の近現代彫刻を紹介いたします。石川県の彫刻を眺めると、まず作家については全国的にも長い歴史を誇る県立工業学校に係る作家の活躍がみえ、戦後からは金沢美大の存在が大きな特色となっています。また各作品は様々なテーマの下に、人体から抽象まで多様な形態の作品が、ブロンズ・石膏・乾漆、また木・石・ステンレス・鉄等々の素材によって制作されていて、自由で幅広い作品が見えるものとなっています。多彩な展開を示す本県彫刻作品の数々をお楽しみ下さい。



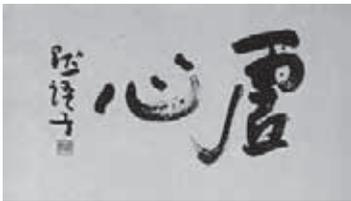
三谷慎「曲芸師」

第4展示室 石川の 近代彫刻家たち

第3展示室

墨の美 [書]

今回は、筆線を追いながら書の作品と対話する鑑賞方法をご紹介します。しかし、書の鑑賞には筆線の美だけでなく、余白の美もあります。余白は文字が書かれていない部分ですが、画面上における墨のにじみや線のかたまり、かすれによる粗密の表現によって、余白はただの余った空間ではなく、作者によって作り上げられた空間となります。今回の書の展示「墨の美」では、文字の大きさや傾き、線の太さ、連続する線、線の流れ、行間や字間、紙面におけるバランスなど、余白の美からも鑑賞されてみてはいかがでしょうか。



小坂奇石「虚心」

第2展示室

新春を寿ぐ —茶道美術を中心に—

千利休の高弟でもあった高山右近をテーマとした展覧会「高山右近とその時代」に関連した特集です。展示されている作品はいずれも館藏品ですが、茶道が盛んな土地柄を反映して、当館には茶道美術の名品が数多くあることを再認識されたかたも多いのではないのでしょうか。また、今回は新年最初の特集ということでも、新春を祝うにふさわしいテーマの作品もあわせて展示しています。特に能面や能装束は、能自体が茶の湯の誕生に大きな影響を与えた歴史的背景もあり、茶道美術との取り合わせでご鑑賞いただくことも、ささやかな趣向といえるのではないのでしょうか。



重文 色絵梅花図平水指
野々村仁清

2月前半の展覧会 1月4日(日)~2月8日(日)

第5展示室では近現代の工芸作家による、香や茶道に関わる作品の展示に併せて、新春にちなんだ華やかな着物も展示しております。友禪の人間国宝・木村雨山による「黒地吉祥文振袖」「赤地吉祥文振袖」の二点は、日本画を学んだ木村の描写力が堪能できる作品です。鮮やかな色彩と糸目糊の白く美しい線が、木々に集う鳥たちや花々に瑞々しい生命力を与え、一對の絵画のような魅力を放っています。展覧会出品履歴はありませんが、木村の隠れた名品と言えるでしょう。羽田登喜男「越前花野」、毎田仁郎「早春」等の優品も併せてご覧いただけます。



木村雨山
「友禪黒地吉祥文振袖」

新春を迎えるの優品選もあとわずかとなりました。普段、一堂に見ることができない様な優品もこの機会に出品しています。例えば日本画の展示室では横山大観の大作「長江の朝」と安田靉彦の優品「飛鳥をとめ」など、普段の展示では目玉としてどちらか一点しか展示しないことが多い作品です。またそういった意味合いでは、油絵の宮本三郎の大作「加賀獅子舞」と小品ながら優美な「鼓」の普段にない取り合わせもお楽しみ下さい。また彫刻では吉田三郎「男立像」などの具象彫刻の優品に加え、梶本良衛「ワ・タ・シ今ナニヲ」など異色の作品も展示しております。



宮本三郎「鼓」

第4・6展示室

新春優品選

第5展示室

香をかざる・ 茶をたのしむ

第9展示室

石川県金沢辰巳丘高等学校
第27回 芸術コース美術専攻卒業作品展
2月24日(火)～26日(木) 会期中無休

本校芸術コース美術専攻は『美術系大学への進学に対応した実技力の育成』を目標に、昭和六十一年に創立して以来、美術の基礎・基本の定着と高い造形表現力の育成を行ってまいりました。卒業生は金沢美術工芸大学をはじめ全国の美大・芸大・美術教育系学部へと進学し、絵画、彫刻、工芸、デザイン、映像、アニメーション、現代美術、そして教育界など地元石川のみならず全国各地、さらには海外において美術文化や美術教育の担い手として活躍しております。

この展覧会は今年度の卒業生二十五名が本校での学習成果を発表するもので、日本画、油絵、彫刻、デザインの四専科から一人数点を展示発表します。この機会を通して、本校美術専攻生徒と本校美術教育の一層の成長、発展への励みになりたいと考えております。

◆入場無料

◆連絡先／石川県立金沢辰巳丘高等学校 詠周史

電話 ○七六一二二九一五五二

第7～9展示室

第21回 北陸国展

2月12日(木)～16日(月) 会期中無休

北陸国展は北陸在住者とゆかりのある国展出品者等で構成され、今年で二十一回展となりました。国展会(国展)は毎年春に国立新美術館で開催される歴史ある公募団体で、北陸国展での成果が国展での受賞者輩出につながっています。今回は絵画部二十二名、写真部二十六名が力作、大作を発表します。またフリースペース展示では米田貫雅(絵画部)と荒牧良一(写真部)が作品をまとめて発表しますので、ぜひご高覧ください。どうぞよろしくお願いいたします。

◆入場無料

◆後援／北國新聞社、テレビ金沢

◆連絡先／本田正史(北陸国展事務局)

津幡町七野一〇七一一

今年も、美術文化学部(二学科、芸術文化学科(日本画・洋画・陶芸・漆芸・学芸文化財)、メディアデザイン学科)の卒業制作、および美術文化専攻科修了制作の成果を発表いたします。小さな学部ですから出品作品数は多くありませんが、一人ひとりの表現や解釈の多様性に今日の若者の感性や関心の傾向を読み取ることは楽しいものです。どうかご高覧いただき、忌憚のないご批評ご感想をお伝え下さいますようお願い申し上げます。

◆入場無料

◆連絡先／金沢学院大学美術文化学部担当受付

金沢市末町一〇

電話 ○七六一二二九一八八〇三

第7展示室

平成26年度 金沢大学

学校教育学類 美術教育専修 卒業制作展
大学院 教育学研究科 美術・図工分野 修了制作展

2月25日(水)～3月1日(日) 会期中無休

第7～9展示室

金沢学院大学 美術文化学部 第12回 卒業研究制作展

2月19日(木)～22日(日) 会期中無休

友の会 会員募集

3月1日(日)から受付開始!郵送でのお申し込みは郵便振替で。現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

- 一、会 費 二、〇〇〇円
- 二、受付期間 三月一日(日)より開始。
- 三、入会手続 次の[A][B]いずれかの方法。

[A] 直接来館してお申し込み

- ・会員 証 / その場で発行。
- ・場 所 / 一階情報・図書コーナー及び事務室。
- ・申込方法 / 会費(現金)と入会申込書に所定事項を記入して提出。
- ・受付時間 / 午前九時三〇分〜午後六時(休館日を除く)
- ※展示替えによる三月の休館日は、二十三日(月)〜二十五日(水)です。

[B] 郵便局からのお申し込み

- ・会員 証 / 三月末から美術館日よりと共に郵送。
- ・申込方法 / 同封の払込取扱表に所定事項を記入し、最寄りの郵便局(ゆうちょ銀行)窓口にて支払い。払込手数料(窓口一三〇円・ATM八〇円)は申込者負担。
- ・注意事項 / 郵便局で払込んだ方は、同封の申込書を郵送する必要はありません。払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください。

◇郵便局(ゆうちょ銀行)備え付けの振替用紙をご使用の場合、口座番号・加入者・通信欄に左の事項を記入してお支払いください。

- ・郵便振替口座 / 〇〇七〇〇一七―四六四九〇
- ・加入者名 / 石川県立美術館友の会
- ・通信欄記入事項 / 年齢、性別、会員の区別(継続・新規・元)、職業、継続会員の方は現在の会員番号

四、その他

- ◇会員証の有効期限 / 平成二十七年四月一日〜平成二十八年三月末日
- ◇会員証の対象 / 記名者本人のみ(ご家族の方との連名受付はありません)。
- ◇一度納入された会費の返金はできません。
- ◇会員証紛失による再発行はできません。

会員の特典

- コレクション展に無料で入場可(要会員証・会員本人のみ)
- 企画展入場券進呈(春季・秋季・冬季三回の企画展のいずれか二回に無料で入場可)
- 企画展の開会式(開会式がない場合は初日)にご招待
- 入館料の割引(要会員証)
 - ① 同伴者二名まで / コレクション展、企画展観覧料が割引
 - ② 会員本人のみ / 石川県立歴史博物館(平成二十七年春リニューアル予定)、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館の各館主催 展覧会を割引。

●館主催諸行事への参加

●館内カフェ「ルミューゼドゥアッシュ KANAZAWA」にてドリンクの割引(要会員証、平日のみ)

●最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送

二月の行事予定

■土曜講座		午後1時30分	聴講無料	美術館講義室
7日(土)	銅像で見る石川の人物史		北澤寛	担当課長
14日(土)	石川の油絵3 昭和〜平成		二木伸一郎	普及課長
21日(土)	美術にみる色・緑		西田孝司	担当課長
28日(土)	水野博と石川ゆかりの友禅作家		寺川和子	学芸専門員
■映像ギャラリー		午後1時30分	入場無料	美術館ホール
22日(日)	世界 美の旅ルノワール〜世紀末の女たち			(30分)
	加賀友禅			(20分)
	美術のみかた9 構図の探求			(23分)

小林 清親 こばやし・きよちか 弘化4年(1847)~大正4年(1915)



江戸時代、木版多色摺の技術により浮世絵版画は急速に表現の可能性を広げ、多くの絵師が活躍しました。明治の版画は文明開化の様々を描き、その主題と華やかな色彩の浮世絵が流布していました。清親は別の世界を示していました。

清親は江戸に生まれ、幼い頃から絵を描くのが好きな少年でしたが、御家人として幕末期には維新の動乱に巻き込まれ、明治維新後は徳川家に従って静岡に移住するなど、時代の大きな変化を肌身に感じる青年時代を送りました。その後、東京に戻った清親は、明治九年、江戸から変貌を遂げた東京の風景を、光と影の表現に工夫を凝らした木版画として発表しました。世にいう「光線画」の誕生です。

この作品でも、躍動感にあふれた駆け抜ける馬車とガス灯のまわりや馬車の光の周りのみに光に映し出された粉雪が描かれ、静と動、光と影を対比させた清親ならではの世界が表現されています。

このように伝統木版の技術の粋を駆使して、西洋風の陰影描写を取り入れた清親の表現そのものが、和と洋の混交するこの時代を伝えており、小林清親の作品は明治の新しい浮世絵になったのです。

次回の展覧会

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

西洋へのあこがれ
-16代利為侯のコレクションから-

古九谷の誕生と展開

会期:3月25日(水)~4月14日(火)

1F企画展示室(7~9展示室)・
2Fコレクション展示室(3~6展示室)

第71回 現代美術展 会期:3月28日(土)~4月14日(火)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

毎月第1月曜日はコレクション展示室
無料の日(2月は2日)

今月の開館時間

午前9:30~午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00~午後7:00 年中無休

2月の休館日は
9日(月)・10日(火)

Meiカード

ポイントプラスデー

毎週水曜日は
エムザでお買物

Meiカード
通常ポイント

+

3%
ポイント
プラス

広告

MEITETSU
MIZA

めいてつ・エムザ

金沢 むさし TEL(076)260-1111(代)
www.meitetsumza.com
10時~19時30分(地階レストラン街・書籍は21時まで)

石川県立美術館だより
第376号(毎月発行)
2015年2月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/